

できたのにと残念に思う。しかし厳格な半面、優しい思いやりを持っておられた先生は、非力な私のささやかな報恩を、快く受け入れて下さるであろう。

## 略歴および著作目録

### 略 歴

- 1907年(明治40年)5月20日 東京市芝区に生まれる
- 1924年3月 東京府立第一中学校四学年修了
- 同 年4月 東京商科大学予科入学
- 1927年3月 同卒業
- 同 年4月 東京商科大学学部入学
- 1930年3月 同卒業
- 1935年4月 明治大学講師
- 1936年4月 東京商科大学講師
- 1941年4月 東京商科大学予科教授
- 1941年8月 大蔵省財務局調査課嘱託
- 1949年2月 財団法人運輸調査局主任調査役
- 1951年11月 神奈川大学教授
- 1953年4月 法政大学・中央大学・専修大学・拓殖大学兼任講師
- 1953年4月 経済地理学会評議員
- 1955年3月 一橋大学より経済学博士の学位を受ける
- 同 年4月 専修大学教授
- 1956年9月 学術会議代表としてケルンにおける社会政策学会に出席
- 1962年6月 日本地域学会理事
- 1963年10月 慶応義塾大学兼任講師
- 1967年10月 日本産業構造研究所理事長
- 1968年10月 専修大学社会科学研究所所長

- 1969年4月 経済地理学会会長
- 1973年3月 専修大学短期在外研究員として欧米へ出張。この間7月12日～15日まで、キールにおける『国際分業に関する会議』に出席。
- 1973年4月 経済地理学会評議員
- 1975年1月23日 東京大学医科学研究所附属病院入院中直腸ガンにて死去
- 同月同日 内閣より勲三等瑞宝章を受く

## 著 作 目 録

### 〔 著 書 〕

- 1935年9月 『経済立地学』河出書房
- 1936年12月 『独逸思想史研究』主張社
- 1938年2月 『経済地理学の基礎理論』南郊社
- 1939年12月 『黄河流域の農業形態』刀江書院
- 1941年8月 『価値概念の日本の内容』刀江書院
- 同 年同月 『カール・ハウスホーファーの太平洋地政学』日本放送出版協会
- 1942年1月 『経済地理』研究社学生文庫
- 1942年6月 『地政学研究』日本評論社
- 同 年9月 『国土計画の基礎理論』日本評論社
- 1943年2月 『地政学概論』日本評論社
- 同 年同月 『南方地政論』千倉書房
- 同 年8月 『国土の精神』新潮社
- 同 年11月 『地理—その基本問題』育英書院
- 1945年5月 『国土と民族』目黒書店
- 1948年1月 『アメリカ資源論』千倉書房
- 1952年7月 『経済立地論』学精社
- 1954年5月 『工業集積論』時潮社（学位論文）
- 1955年5月 『立地論序説』時潮社
- 1959年4月 『経済立地論概説』時潮社（伊藤久秋と共編、かつ第4章執筆）
- 1962年4月 『産業立地論と地域分析』時潮社
- 1963年11月 『内面鏡』のぼりと書店（詩文集）

- 1966年4月 『近代経済学の体系』おおとり社  
 1967年4月 『経済立地論の体系』時潮社  
 1970年4月 『芳塵集』黄土社（漢詩集）  
 1971年3月 『近代経済学の論理』日本評論社  
 1973年6月 『地域経済学体系』勁草書房（全三巻，金子敬生と共編かつ第1巻『経済立地論の新展開』の第一章，第二章及び第三章執筆）

〔訳書〕

- 1931年6月 ヴィルヘルム・ディルタイ『文芸復興と宗教改革』春陽堂  
 1934年8月 フリードリッヒ・シュレーゲル『ルチンデ』春陽堂（世界名作文庫）  
 1937年6月 ヴィルヘルム・ヴィンデルバンド『哲学とは何ぞや』芸文書院  
 1938年11月 アルフレート・ヴェーバー『工業分布論』改造社（改造文庫）  
 1953年6月 オットー・ブルーム『交通地理学』運輸調査局  
 1966年5月 アルフレート・ヴェーバー『工業立地論』大明堂（監訳）  
 1969年8月 ヴォルター・クリスタラー『都市の立地と発展』大明堂

〔論文・その他〕

- 1927年5月 「実証論者としてのカント」『ヘルメス』  
 1930年5月 「啓蒙思想と先験的論理学」『ヘルメス』  
 1931年11月 「小市民的閉鎖」『思想』112  
 1933年11月 「啓蒙的専制」同上誌，136  
 1934年11月 「独逸的イデオログとしてのカント」同上誌，148  
 1937年1月 「ゲーテと伊太利—馬場久治氏近著」『一橋新聞』  
 同年8月 「神聖貨幣の諸形態」『社会経済史学』7の5  
 1938年1月および2月 「財宝貨幣の成立とその発展」同上誌，7の10および11  
 同年1月 「類型としての人種の性格」『一橋論叢』2の5  
 同年3月 「経済における民族の問題」『一橋論叢』1の3  
 （Herbert Kniesche; Das Volk in der Wirtschaft）  
 同年6月 「数，数値，空間」『和泉文化』1.  
 同年7月 「ルチンデに現われた浪漫的イロニー」『一橋』

- 1938年12月 「ゲオポリティーク瞥見」『和泉文化』2.
- 1939年1月 「工業立地論について」『地理学』7の1
- 同 年2月 「最近の経済地理学における空間概念」『一橋論叢』3の2
- 同 年3月 「空間概念に関する地理学・社会学・経済学における文献」同上誌, 3の3
- ( ○印は「地政学研究」に再録 )  
 ( ×印は「国土と民族」に再録 )
- 同 年同月 ○「Der Reis-typus, oder arbeitsorientierte Typus», Cultural Nippon,  
 Vol. 6. №3
- 同 年同月 「支那における人文地理学説」『地理学』7の3
- 同 年4月 「世界史の一駒としての独逸思潮史」『社会経済史学』9の1
- 同 年5月 ○「農業を通じて見たる北支経済空間の特徴」『地理学』7の5
- 同 年9月 「地球空間について」『地理学』7の10
- 同 年10月 「独逸経済学の課題としての空間」『一橋論叢』4の4
- 1939年11月 ×「地政学及びハウスホーファーの主著について」『新独逸』4.
- 同 年同月 ○「太平洋の地政学とその理論的基礎」『太平洋』2の11
- 同 年12月 「資源の概念」『地理学』7の10
- 1940年1月 吹田順助著「ビーターマイヤー文化」『中外商業新報』
- 同 年同月 「古代における東洋の造幣技術の特徴」『社会経済史学』9の10
- 同 年3月 「日本貨幣小考」『一橋新聞』
- 同 年同月 ○「空間編製の理論的基礎」『一橋論叢』5の3
- 同 年5月 「民族と人口との関係」『地理学』8の4
- 同 年6月 「欧州動乱と資源の問題」『専売』334.
- 同 年7月 「空間概念の二つの極」『和泉文化』5.
- 同 年10月 「古代の米作に関連して」『一橋新聞』
- 同 年同月 ○「地政学の基本問題」『思想』221
- 同 年11月 「日本中古の通貨政策の特徴」『社会経済史学』10の11
- 同 年同月 「国際新情勢と国防国家」『公論』3の11 一座談会記録一
- 同 年12月 ○「地政学の文献について」『経済往来』13
- 1941年1月 「農業人口と栽培物との関係の一般的研究」『人口問題資料』40.
- 同 年同月 ○「日本の立場と地政学」『公論』4の1

- 1941年3月 “Geopolitical Unity in the Austrasian Seas”, Bulletin of the South Sea Association, Vol. 4 No. 4.
- 同 年同月 「人種学と地政学との交渉」『一橋論叢』7の3
- 同 年同月 ×「地政学的研究について」『地理学』9の3
- 同 年同月 ×「濠亜海の人種の基底とその地政学的統一性」『南洋』27の3
- 同 年4月 ○「地政学の対象としての生活空間」『理想』119
- 同 年同月 ○「濠太利亜細亜海の地政学的考察」『国際経済研究』2の4
- 同 年同月 「西南太平洋における日米の対立」『一橋新聞』
- 同 年同月 「地政学からみた米国の脆弱性」『報知新聞』
- 同 年5月 ×「米国と西南太平洋 — 地政学的考察 — 」『文化日本』5の5
- 同 年同月 ○「国防地政学と西南太平洋」『改造時局版』23の10
- 同 年7月 「広域経済と地政学」『三田新聞』
- 同 年9月 ○「地政学上の空間概念」『科学ペン』6の9
- 同 年10月 「下村氏の『自然哲学』」『報知新聞夕刊』
- 同 年同月 「独逸と太平洋」『報知新聞』
- 同 年11月 「ゲーテの自然研究の現代的意義」『一橋論叢』8の5
- 同 年12月 「東亜共栄圏の地政学的基礎」『興亜』2の12
- 同 年同月 ×「西太平洋の地政学と日本の発展」『世界政治研究』
- 同 年同月 「ハウスホーファーの『国防地政学』」『読売新聞』
- 1942年1月 「地理学者ゲーテ」『科学思潮』1
- 同 年同月 「モノクロトウルとアウトアルキー」『地理学』10の1
- 同 年同月 ○「ドイツ地政学の発展」『日独文化』2の4
- 同 年同月 ○「印度洋地政学」『新亜細亜』4の1
- 同 年同月 「太平洋の地政学」『満州日々新聞』
- 同 年2月 ×「国防地政学の基本概念」『地政学』1の2
- 同 年同月 ○「大東亜戦争と地政学」『読書人』2の2
- 同 年同月 ×「新太平洋の地政学」『戦線文庫』5の3
- 同 年同月 「吹田博士の『独逸精神史』を読む」『一橋論叢』9の2
- 同 年3月 「国土と民族について」『科学思潮』3
- 同 年同月 「太平洋協会訳『太平洋地政学』を読む」『帝大新聞』

- 1942年3月 「南方共栄圏の文化政策」『神戸商大新聞』
- 同 年4月 「大東亜戦争と太平洋地政学」『興亜』3の4
- 同 年同月 「海洋地政学と西南太平洋」『新文化』12の4
- 同 年同月 「南方共栄圏の地政学」『エコノミスト』20の13
- 同 年同月 「南方圏の民族政策」『中外商業新報』
- 同 年5月 ○「新秩序の理念としてのアウトタルキー」『ドイツ』3の9
- 同 年同月 「印度洋の地政学的意味」『日本評論』17の5
- 同 年同月 ×「地政学の対象としての印度洋」『地政学』1の5
- 同 年同月 「地政学と立地論」『技術評論』19の5
- 同 年同月 ×「南方圏の国防地政学」『国際経済研究』3の5
- 同 年同月 ×「地政学より見たる南方資源」『統制経済』4の5
- 同 年同月 「国土計画の理論的基礎」『一橋論叢』14の1
- 同 年6月 「生活空間と国防空間」『思想』241
- 同 年同月 「『地政学とは何か』その他」『読書人』2の6
- 同 年同月 ×「地政学より見たる南方都市」『都市問題』34の6
- 同 年同月 「独ソ戦はどう進むか」『週刊少国民』1の7
- 同 年7月 「地政学から見た民族論」『読書人』2の7
- 同 年同月 ×「北アジア地政学の一節」『興亜』3の7
- 同 年同月 ×「国土計画の地政学的基礎」『国土計画』1
- 同 年同月 「太平洋国防地政学 — 座談会 —」『新経済』2の14
- 同 年同月 「地政学, 現状と将来」『読書新聞』
- 同 年8月 「太平洋の地政学(1〜3)」『大通信・78〜80』— NHK放送の概要
- 同 年同月 「西南太平洋における勢力線と港市」『エコノミスト』20の31
- 同 年9月 「地理的現象における歴史的なるもの」『一橋論叢』10の3
- 同 年同月 ×「大陸経済の工業化」『実業之日本』45の18
- 同 年10月 「独逸の国防経済と立地」『ドイツ』10月上旬号・5の19
- 同 年同月 ×「印度文化の地政学的理解」『科学文化』2の10
- 同 年同月 「地政学」『読書新聞』
- 同 年同月 「技術と資源」『工業大学新聞』369,
- 同 年11月 ×「農村工業化についての覚書」『農村工業』9の11

- 1942年11月 ×「南方地域における人口の偏在」『総合経済』6の14
- 1943年 「ゲーテの自然研究における類型論」『日独文化協会年報』2、
- 同 年1月 ×「国土計画の日本的性格」『新経済』3の1
- 同 年2月 「濠洲地中海における仏領印度支那の位置価値の変化」『地政学』3の2
- 同 年同月 ×「八紘の意義」『興亜』4の2
- 同 年同月 「大東亜海の地政学」『南洋経済研究』6の2
- 同 年同月 ×「大東亜経済力の結集」『実業之日本』46の4
- 同 年3月 「共栄理念と国土計画」『地政学』2の2
- 同 年4月 「支那の地政学」『東洋』30
- 同 年5月 「国土計画の課題としての農工調整」『農村工業』10の5
- 同 年同月 「不敗の態勢」『満州新聞』
- 同 年6月 「東南アジアにおける華僑人口の分布」『人口問題』5の4
- 同 年同月 「戦争は教える」『満州新聞』
- 同 年8月 「南方圏の民族問題」『読書人』2の8
- 同 年9月 「国防線としての西南太平洋」『歴史日本』2の9
- 同 年同月 「大東亜民族の躍起」『実業之日本』46の17
- 同 年同月 「国土と民族精神」『同盟世界週報』24の38
- 同 年同月 「海洋の隔離力と結合力」『日本学研究』3の8
- 同 年同月 「自然地理学の方法について」『科学思潮』3の1
- 同 年10月 「オイクメネーについて」『地政学』2の10
- 同 年同月 「共栄圏の地政学」『東京新聞』
- 同 年11月 「地政学としての国土統制」『官界公論』9の101
- 同 年12月 「大東亜国土計画」『工業大学新聞』
- 1944年 「仏領印度支那の工業および工業化の問題」（南方政治経済研究所刊  
『仏領印度支那総覧』第4篇第6章）
- 同 年1月 「国防と国土計画」『農村工業』11の1
- 同 年2月 「南方圏地政学」（『南方年鑑』東邦社版上篇第1章）
- 同 年同月 「『濠洲年鑑』について」『読書新聞』
- 同 年同月 「矢内原氏の批評に答う」『帝大新聞』
- 同 年7月月 「国土計画の理論的基礎」『一橋論叢』14の1

- 1944年10月 「東亜民族の形成過程」『大鵬』15の10
- 同 年11月 「地政学の現況」『科学知識』24の9
- 1945年 「地政学の基本問題」『国防経済学全集』叡松堂版・所収
- 1945年1月 「内線の利」『東京新聞』
- 1947年2月 「大量生産とアメリカン・デモクラシー」『房総春秋』1の1
- 同 年5月 「ロマンチズム」『近代思潮講座』3, 六和出版部
- 1948年3月 本多謙三「論理学通説」後記
- 1949年7月 「位置価値と運輸」『運輸と経済』5の1
- 同 年8月 「限界位置価値と運輸」『運輸と経済』5の3
- 同 年12月 「消費性向と運輸」『運輸と経済』5の6
- 1951年2月 「不完全市場における運輸」『運輸と経済』8の2
- 同 年5月 「学園都市」『拓大新聞』326
- 同 年7月 「消費者余剰と運賃負担力」『運輸と経済』9の1
- 同 年8月 ボナビア「交通経済論」新版『運輸と経済』9の2
- 同 年11月 ブルーン「交通と国土計画」『運輸と経済』9の5
- 1952年1月 「不完全市場の空間的構造」『商経法論叢』2の3
- 同 年11月 「日本の周辺」(東京堂『世界現勢事典』640～642ページ)
- 1953年1月 「経済学方法論における論理主義と心理主義」『商経法論集』3の2
- 同 年10月 「工業集積の実態と理論」『専修大学社会科学研究所月報』1
- 同 年同月 「立地の動態と集積」『PR』4の10
- 1954年3月 "Über die Struktur des Konsumentenraumes", Zeitschrift für  
die gesamte Staatswissenschaft, Bd. 110, H. 1.
- 同 年4月 「ヴァーン・シカゴ学団の動向」『世界危機と現代思想』理想社
- 同 年7月 「経済学における数学的方法について」『商経法論叢』5の1
- 同 年9月 「工業立地の整備について」『都市問題』45の9
- 1955年6月 「立地論」『経済学大辞典』1, 東洋経済新報社
- 同 年7月 「岐路に立つインドネシア」『新論』1の1
- 1957年4月 「経済現象の空間性」『経済地理学年報』2
- 同 年5月 「社会科学における空間概念」『専修大学論集』11
- 同 年6月 「統一科学論と経済学」『理想』289



- 1957年6月 「第36回ドイツ社会政策学会経済学会議について」『専修大学論集』14
- 1958年10月 「地政学の最近の動向」『海外事情』5の8
- 1958年 「学生にすすめる書」『専修大学新聞』
- 1959年1月 「欧米の大学一座談会記録」『専修』4
- 同 年同月 「交通の発達と商店の立地」『ウェアタイムズ』96
- 商経ガイダンスに再録 —
- 同 年同月 「近代経済学の視角から見たマルクス理論」『経済往来』11の5
- 同 年同月 「社会科学と自然科学との境」『経済往来』11の5
- 同 年同月 「時間概念と経済動学」『専修大学論集』20
- 同 年8月 「チベット社会主義革命の矛盾」『政界往来』25の8
- 1960年5月 「ジャーナリズムとアカデミズム」『経済往来』12の5
- 同 年6月 「地政学の系譜」『政界往来』25の6
- 同 年同月 「故A・ウェーバー教授とその業績」『専修大学論集』23
- 同 年8月 ユーグナー「後進国の工業化過程における都市と農村」『経済往来』12の8
- 同 年11月 「地中海の地政学」『政治地理』1.
- 1961年 「アルフレート・ウェーバーの工業立地論」（平凡社『文献解題事典』所収）
- 同 年3月 “Mikro-und Makroanalyse in der Standortslehre”, Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft, Bd. 117, H. 1.
- 同 年8月 「経済学は役に立つか」『専修』9
- 同 年12月 「現代における立地論の動向とパランダー」『一橋論叢』46の6
- 1962年6月 「商店の立地条件」『商経ガイダンス』2
- 同 年9月 「価値尺度としての労働と賃金単位」『専修大学論集』30
- 同 年11月 「経済理論における対応の原理」『経済往来』14の11
- 1963年3月 「地域独占と均衡」『日本工業立地センター研究年報』1
- 同 年同月 「総合開発のための一課題」『国民生活研究』2の4
- 同 年同月 「成長理論における工業化の問題」『専修大学論集』32
- 同 年同月 「チューネン環の成立について」『法政大学教養部研究報告』7
- 同 年11月 「西ドイツの共同決定制度」『専修大学論集』33
- 同 年12月 「故・小島栄次教授を偲ぶ」『日本産業構造研究所調査月報』39
- 1964年12月 「ゲーテ類型の再検討」『ゲーテ年鑑』6

- 1965年 「吹田先生の思い出」『思い出の吹田順助先生』
- 同年 “Morphology and Economic Theory of Industrial Agglomeration”,  
Papers and Proceedings of the First Far East Conference of the  
Regional Science Association, 1.
- 同年5月 「加速度と成長率との関係に関する試論」『専修大学社会科学研究所月報』24
- 同年8月 「近代経済学の方法に関する若干の覚書」『専修大学経済学論集』1
- 同年9月 「立地論」 「レッシュ」『経済学辞典』岩波書店
- 同年11月 「加速度と成長率との関係に関する試論—補正」『専修大学社会科学研究所月  
報』26
- 1966年4月 「色彩論史に現われたゲーテの歴史観」『ゲーテ年鑑』7
- 同年5月 「輸送と工業立地」『現代交通』運輸調査局
- 同年同月 書評, シモン・ピエール・ジャコー 「戦略と競争—空間競争分析のためのゲー  
ム理論の適用について」『専修経済学論集』2
- 同年11月 「工業立地の動向」『海外情報』14の11
- 1967年 “Spatial Competition and Distance Preference”. Papers and  
Proceedings of the Second Far East Conference of the Regional  
Science Association, 2.
- 同年12月 書評, ヘルバート・シュミット, 「工業化の過程における投資の空間的効果につ  
いて」『専修経済学論集』4
- 1968年11月 書評, ジョン・ヴィユ 「社会科学における構造主義の諸方法」『専修大学社会科  
学研究所月報』62
- 1969年3月 学界展望, 「構造および構造主義の概念について」『専修経済学論集』7
- 1970年5月 「地域経済における寡占と独占競争」『専修大学社会科学研究所月報』82
- 同年12月 「統一科学から見たマックス・ヴェーバーの方法論」『専修経済学論集』6の1
- 1971年8月 「構造としての地域; その区分基準」『専修大学社会科学研究所月報』95
- 同年12月 「月報100号に寄せる」『専修大学社会科学研究所月報』100
- 1973年2月 「歴史認識における時間と因果性 — 特に新経済史と関連して — 」『専修経済  
学論集』8の1
- 同年3月 「森川君の死を痛恨する」『専修大学社会科学研究所月報』114
- 1974年6月 学界展望, 「国際分業の諸問題 — キールにおける社会政策学会・世界経済研

研究所共催『国際分業に関する会議』報告の概観 — 』『専修経済学論集』9の1  
1974年6月 「故・雪山慶正教授を悼む」『専修大学社会科学研究所月報』129

この略歴および著作目録は、一橋大学教授青木外志夫氏と青山学院大学教授西岡久雄氏の作成にかかる（両氏編著『経済立地の理論と計画・伊藤久秋教授古稀・江沢譲爾教授還暦・記念論文集』1967年時潮社刊、巻末所収）ものを基礎とし、学習院大学助教授江沢太一氏と専修大学助教授竹林代嘉氏のご援助を得て作成された。（黒田彰三）

<編集後記> 去る1月23日になくなった江沢所長の追悼の号をおとどけします。この3年、社会科学研究所は3人の所員をつづけて失なっています。まことに痛恨のきわみであります。月報が毎年追悼の言葉をささげなければならないことは悲しいかぎりです。

それぞれの方々に江沢先生の学問とお人柄を語っていただいたが、10年ほど前、本学で講義をするようになってはじめての日、向丘遊園駅前で勝手不案内な私のところに瘦身の紳士が近寄り声をかけて下さり、マイクロバスと一緒に乗り、わざわざ2号館2階の教員室入口前まで案内をして下さったのが先生にお目懸ったはじめての機会であった。そのときは勿論先生とは存じあげず、まもなく漢詩もよくされることを知り、バスのなかでは四庫全書について話題にされたのであったが後にまことに先生にとっては満足のゆく答ができなかったのではないかと冷汗をかいた（今になればどのようなやりとりであったか記憶が定かでないだけに）思い出がある。また先生は御自身には厳しかったが他人には寛容であられ、編集担当を命ぜられながら学内の他の用務で十分なことができ難くなり辞任を願い出ると、先生はそんなに固苦しく考えず適当にやればよいと担当をはずすことは肯ぜられなかったが、しかし、先生御自身は昨年12月の社研総会にお体の無理をおして出席され、所長の職務の代行を総会の席で大友教授に依頼されておられるのである。後輩に対して暗黙に教訓を示されたものであろう。学問こそ違へこの10年間先生のお人柄にふれえたことは私にとってまことに幸であった。御冥福を祈ること切である。（宮坂）

神奈川県川崎市多摩区生田4764

専修大学社会科学研究所 電話（044）911 - 7131（内線63）

（発行者） 大友福夫